

令和 7 年 11 月記者会見

質疑応答の概要

①都市型自走式ロープウェイ導入可能性調査の結果について

Q.

ロープウェイについて、事業者は公共交通機関として 2033 年の運用開始を目指しているようですが、市はいつ頃の導入を目指す予定でしょうか。

A.市長

現在事業者で国交省と認可の手続きについてやり取りを進めていると報告を受けており、国交省から自走式ロープウェイの認可が下りるのを待ち、その後本格的に詳細調査に入る形になると思っています。なかなか明確には言えませんが、2033 年くらいまでに実現できれば大変ありがたいと思っています。

Q.

詳細な調査は国交省の認可が下りてからということでしたが、その間の市の動きはどうなるでしょうか。

A.市長

今回の報告書に基づいて、直営で調査を継続して進めていきます。

Q.

中間駅は想定していますか。

A.市長

想定していますが立地条件などもありますので、駅数や場所は今後の調査によるかと思います。

Q.

泉中央駅も再開発が進んでいますが、駅舎はどのあたりに建てるのでしょうか。

A.市長

駅舎の場所も今後の課題ですが、まずは仙台市のご理解をいただきながら、実現に向け努力していきます。

Q.

一つ目のハードルをクリアしたというお話でしたが、改めて市長のお気持ちをお聞かせください。

A.市長

まずは今回の報告書で物理的に実現可能という報告をいただき、次への希望を持って進めるということは大変うれしく思っています。バスの運転手が不足している中、ロープウェイは自動運転であり、基幹公共交通を担えるものと大きな期待をしています。他の自治体もこの自走式ロープウェイに関心を持っており、導入に向けて検討していますので、そういった自治体と連携し、実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

Q.

イメージとして道路の中央部に立てるような形でしょうか。それともそこから横に広がるような形でしょうか。

A.市長

詳細はまだ決まっていますが、支柱をある程度の間隔で立てなければいけないので、用地を確保できる場所に支柱を建てて、それをロープでつないでいく形になると報告をいただいているところです。

Q.

公道の上を利用することで費用が抑えられるという目的だったと思います。今回の報告の事業費には用地費用が含まれていませんが、用地の取得はそこまでかからないという想定ですか。

A.市長

基本的に事業者の考え方が公道の上を走ることによって経費や整備期間を短縮できるというものですので、そのような形で整備を進めていくことになると思います。ただ、公道以外の用地取得の可能性も想定しなければいけないと思います。用地については、まだこの段階では明確に示されていないので、用地費用は含まない形で報告を受けています。

Q.

今後はバスとBRTも含めて3つから検討を続けていくような形でしょうか。

A.市長

引き続き地下鉄、BRT、ロープウェイで検討はしていきますが、ロープウェイが国交省の認可が下りれば、これからの公共交通機関を担うものとして大きな期待を寄せています。

Q.

国交省からの認可が下りればロープウェイを導入する可能性が高いということでしょうか。

A.市長

はい、そうです。

Q.

今後も直営で調査していくというお話がありましたが、どの課でどのような調査をするのでしょうか。

A.市長

企画部企画政策課交通政策推進室が中心となり進めていきます。

Q.

事業費などをより具体的に精査していくという事でしょうか。

A.市長

その通りです。直営なのでそこまで大きな金額にはならないかと思いますが、ある程度の金額は発生すると思いますので、次年度の当初予算に組み込み調査していきます。

Q.

今回2つのルートが示されていますが、これは試算のためだけに選定されたものではなく、もう少し踏み込んでこの2つのルートを軸に今後検討を進めていくというものでしょうか。

A.市長

その通りです。今回2つのルートを検討した背景には、なるべく最短距離が良いということがありルート1のほうが優位性がありますが、実現できるかどうかは今後の調査次第となりますので、複数のルートを検討していくものです。

Q.

事業費の規模は想定の範囲内でしょうか。

A.市長

現在の資材高騰、物価高騰や安全確保のために必要なものが見えてきたということで、最終的に明石台まで100億円、その他さまざま費用はかかるかと思いますが、ある程度想定範囲内と考えています。

Q.

事業費の中で一番コストとして大きいものは何ですか。

A.市長

報告書 10 ページに記載があるとおり、駅間の設備や駅舎費、車両費などです。

Q.

用地取得について課題はありますか。

A.市長

公道であれば道路管理者のご理解とご協力をいただければ問題ないと思いますが、民地等に支柱を立てるとなった場合は取得が必要になります。ただ、可能であれば道路敷地など公用地内で納められればと考えています。

Q.

調整先としては国、県、仙台市。状況に応じて民間もということでしょうか。

A.市長

そうです。

Q.

これからの課題として、仙台市との連携等はどう考えていますか。

A.市長

まずは仙台市のご理解とご協力なくして実現できませんので、そこが一番大きいと思っています。

Q.

現在国交省の認可待ちということですが、その間調査以外にやろうとしていることはありますか。

A.市長

国交省の認可については推移を見守りながら、現在導入を検討している他自治体と、場合によっては国に対して要望活動を行う必要があるかもしれないというお話しはしていますので、実現に向けてでき得ることはしていきたいと考えています。併せて直営で調査を継続し、仙台市にも都度ご報告をさせていただきながら、ご理解をいただけるよう努力していきたいと思っています。

Q.

事業費は最低 100 億とのことで、これは富谷市で負担するのでしょうか。

A.市長

富谷市民のために導入するので、ある程度は富谷市で負担を考えています。また、国交省からの認可が下りれば国からの補助や、県のご理解・ご協力も含めて考えながら、ある程度確保していければと思っています。

Q.

今後、市で行う調査のポイントはこういったところですか。

A.市長

支柱をどの辺に建てられるか場所の選定など、より具体的な調査が必要と考えています。

Q.

仙台市との協議・相談のタイミングは、国交省の認可の目処が立った後というイメージですか。

A.市長

おそらくそうなると思いますが、現在も地下鉄、B R T の時も含め報告書ができた段階で随時ご報告はさせていただいています。

Q.

実際に仙台市へ相談する際、どのような相談をするのか具体的に教えてください。

A.市長

現時点でお答えするのはなかなか難しいですが、このロープウェイが富谷市民のためのみならず泉中央の渋滞緩和など仙台市民にとってもメリットがあるということを、お示しできるかが重要だと考えています。

Q.

今回の報告書に関する仙台市への報告は、いつ、どのような形で行われたのでしょうか。

A.市長

11 月 19 日、副市長が仙台市の副市長を訪問し、報告書を持参して報告をさせていただきました。

Q.

B R Tについて調査の時期が違うので一概には言えないと思いますが、一番安くて 85 億円となっており選択肢の一つとして大きいと思いますが、どのように考えていますか。

A.市長

この金額は令和 5 年度調査時のものですので、現在の単価で計算すると高騰していると思いますが、B R Tを切り捨てるわけではなく調査結果は大切にしていきたいと思いますし、ロープウェイが国交省の認可が下りないとなった際には、地下鉄かB R Tかという選択になることもありますので、今後も並行しながら継続して調査、検討を行っていききたいと思います。

Q.

中間駅は 1 から 2 カ所というイメージなのでしょうか。

A.市長

はい。これまでの地下鉄やB R Tの場合も、中間駅を 1 カ所もしくは 2 カ所という想定で検討してきましたので、同様に考えています。

Q.

今後の直営での詳細調査は、支柱の場所や予算、概算事業費も精査しつつ、事業便益の算出など費用対効果も精査していくという事でしょうか。

A.市長

その通りです。

令和 7 年度第 4 回富谷市議会定例会提出議案

①補正予算の概要

Q.

主な補正内容について、クマ対策の誘引樹木の伐採や箱ワナ等とありますが、これら以外について、こういったものなのか教えてください。

A.農林振興課長

箱ワナのほか、鳥獣対策用スプレーやプロテクター、ヘルメット、爆竹等の購入を想定しています。

Q.

マーチングバンド全国大会とバトントワーリングについて、4 団体および個人とありますが、団体数と人数を具体的に教えてください。

A.生涯学習課長

マーチングバンドが3 団体で富谷マーチング・エコーズ 138 名、明石台小学校金管バンド 39 名、富ヶ丘小学校金管バンド 45 名、またバトントワーリングは FICS・M12 名です。あとは個人として市外のマーチングバンドが 18 名です。

Q.

全国大会はいつ、どこで行われるのでしょうか。

A.生涯学習課長

12 月 6 日、7 日にさいたまスーパーアリーナで行われます。